



谷口 和弥 議員
(拓政会)

問 スポーツ合宿や大会等の幕別町開催についての考えは

答 「幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会」などの意見を聞き、進むべき方向を協議していく

問 「アスリートと創るオリンピアンの町創生事業」も含め、引き続き、人口減少対策と地方創生を推進するための「第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が審議会で議論されている。ついては、次の点を伺う。

- (1) 「慶応大学夏合宿」、「車いすラグビー」日本選手権大会予選リーグ」の幕別町開催への経緯は。
- (2) 「合宿・大会等受入者数」の昨年度の数値目標達成状況と評価は。
- (3) 合宿開催地としての幕別町の優位性と今後の課題は。
- (4) 慶応大学の合宿が今後も幕別町で開催される可能性は。
- (5) 夏季オリンピック競技の幕別町応援大使の3選手を、町も先頭に立って激励する考えは。

教育長 (1) 慶応義塾大学のOBを通じて幕別運動公園野球場の使用について照会を受け、協力体制の調整や関係団体等との確認を行い、合宿誘致につなげてきた。車いすラグビーは、小中学生対象の「パラリンピック実践教室」を開催し、教室で指導を依頼した、車いすラグビーチーム「SILVERBACKS」の道東十勝に障がい者スポーツの理解を広げたいとの思いから、大会開催の要請があり実施に至った。

(2) 数値目標の270人に対し、慶應義塾体育会野球部合宿42人、日本クラブユースサッカー選手権大会210人、管内高校運動部47人、合計299人、進捗率は111%であった。運動公園野球場や陸上競技場を中心に施設が充実し、管外や道外からも合宿や大会を受け入れる環境にあると考えている。

(3) 運動公園内の施設面で評価いただき、優位性がある。課題は、要望に応える低価格の宿泊先や移動手段、洗濯やトレーニング環境の整備など費用負担面のほか、施設の優位性や観光資源を宣伝する知名度向上のための情報発信面がある。官民協働で組織する「幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会」などのご意見をいただき、進むべき

方向を協議していきたい。(4) 部員へのアンケートなどから、大変満足いただいたと捉えている。引き続き、幕別町での合宿を期待している。(5) 「2016リオデジャネイロオリンピック競技大会」に出場し、町民に夢と希望を与えてくれた、福島千里選手、山本幸平選手、桑井亜乃選手は、東京オリンピックに向けて最終調整を行っている。町ホームページやSNSを活用し、選手の最新情報や大会情報の発信など、町全体で「応援する」機運を醸成したい。

問 「幕別町防災訓練計画」の総括と今後の課題は

答 地域防災力の強化を通じ災害に強く安心なまちづくりを目指す

問 災害応急対策を円滑に実施するため、関係機関と共同で行う防災知識と技術の向上、住民に対する防災知識の普及を目的とした「幕別町防災訓練計画」が、今年度ですべて終了した。



慶応義塾体育会野球部
幕別合宿

- (1) 住民の訓練への参加状況、地域の自主防災組織の結成状況は。
- (2) 訓練から見えた「幕別町地域防災計画」の検討課題は。
- (3) ハザードマップ改訂や指定避難所の見直しは。

町長 (1) 地域防災訓練は、指定避難所14か所で87公区、2464人に参加いただき、全体では10.1%の参加状況となった。自主防災組織は47公区で組織され、公区組織率は41.6%、公区世帯数の割合では、66.5%となっている。(2) 計画に変更を加えるまでの課題はなかったが、地域の防災力を高める啓発など、地域防災マネージャー資格を有する防災専門職員の任用を予定している。(3) 途別川の区間で浸水想定区域の見直しがあり、令和2年の出水期までにハザードマップの見直しを行う。指定避難所の見直しはない。